

同窓会便り

発行
 東北大学・電気・通信・
 電子・情報同窓会
 仙台市荒巻字青葉
 TEL 22-1800
 発行責任者
 高野知彦
 (題字 高野知彦氏)

鳥山四男先生の御逝去を悼む

佐藤利三郎



御略歴	
明28年10月	長野県松本市に生まれる
大11年3月	東北帝大・工・電気卒
大11年4月	理化学研究所助手
大12年12月	アール・ヘン工科大留學
大15年7月	北海道帝大教授
昭17年7月	北叙勲三等授章
昭22年2月	日立製作所中央研究所所長
昭26年1月	日本学術会議員に就任
昭26年11月	東北帝大教授
昭32年4月	東武蔵工大教授
昭43年4月	北叙勲三等授章
昭47年4月	中叙勲章
昭54年11月	武蔵工大名誉教授
昭56年12月	日本学士院会員
昭56年12月	御逝去、86才
昭56年12月	北叙勲二等授章

昭和五十六年十二月七日鳥山四男先生には病魔かに改まり、御逝去あそばされました。あまりの突然のことで信ずることが出来ませんでした。

先生の御葬儀は十二月十四日東京目白の先生の御関係の深い武蔵野教会で行われました。北海道、東北、東京はじめ全国各地から多数の方々が集まり、深い悲しみのうちに、ありし日の先生を偲び、厳かに行われました。同窓会の方々と共に謹んで先生の御冥福を御祈り申し上げます。

鳥山四男先生は明治二十八年(一九八五年)十月二十五日松本市にてお生れになり、大正十一年二月本学工学部電気工学科を御卒業になり、北海道大学、日立中央研究所、東北大学を経て、武蔵工業大学に在籍され、六十年にわたる研究、教育を続けられました。この長い研究、教育において、先生は常に創造性を尊び、自ら実践されると共に常に創造性を提唱されました。先生の御研究は液体絶縁物の沿面放電、気中放電の破壊現象とその機構の解明など一貫して、高電圧工学の分野で独創的研究を進めてこられました。先生はこれらの御功績によって日本学士院会員に選出されました。この方面の先生の御研究は止むことを知らず、昭和四十七、四十九、五十五年(七十八才、八

十才、八十六才)と電気学会論文賞を受賞されておられます。先生は身をもって、独創的研究の範を示されました。又先生は常に独創性を育てる教育を提唱されました。『昨今の学校教育が唯ものを覚えることに終始して、知識を獲得するに急なあまり教育は狂育もしくは競争となり果てているが真の教育とは「引き出す」すなわち人間の中に在るすぐれた個性を引き出して、それをのびのびと伸ばしてやるものである。日本が真に国際社会に貢献するために残された道は創造的頭脳を育てるための個性を生かす教育しかあり得ない』と述べておられます。先生は又常に身体の内面を鍛錬に努められ、スキー、テニス、体操など積極的に行っておられました。先生が七十才ころ食道癌らしいと気付かれ、早速病院で診断されたところ異常がないと診断されましたが、引き出して、それをのびのびと伸ばしてやるものである。日本が真に国際社会に貢献するために残された道は創造的頭脳を育てるための個性を生かす教育しかあり得ない』と述べておられます。

先生は母校東北大学を限りなく愛しておられ、何時も心よく相談に乗って下さいました。戦後電子同窓会が新しく発足した際には初代会長として、工学部

先生は何度も病院をたずねられて再診を重ねられ、ついに病気が確認されたとの御話を聞き、先生の厳しさには驚くばかりありませんでした。先生は治療され八十六才の御高令まで御研究に活躍なさいました。先生は母校東北大学を限りなく愛しておられ、何時も心よく相談に乗って下さいました。戦後電子同窓会が新しく発足した際には初代会長として、工学部

鳥山先生といえは、高電圧工学の世界的権威であつて、「...」ということになるのが常識ではあるが、鳥山研究室にいたわれわれにとつては何といつてもダストフィギュアと電気燻製である。ダストフィギュアとは、エポナイト板をアルコールをしませた脱脂綿できれいに拭いておいて、その上の沿面

放電の眼には見えない軌跡を、鉛丹と松脂の粉を振りかけて浮き上がらせるもので、原理は複写のゼロックスと同じである。負の電荷のあるところには赤い鉛丹が付着し、正の電荷の残つてるところには黄白色の松脂がつき、二色刷りの見事な樹枝状の放電図形が得られる。当時助手であつた杉田教授(岩手大

鳥山四男先生の御冥福を祈り

長

日本の電子工業にも独創技術が少いことは最近漸く問題視されはじめたことですが、その発端がK₁、K₂、K₃ビット記憶用集積回路の対米輸出比の急増という小さな事象によつて思ひ上がった御意見が沢山に現われた訳で、僅かな反省として取り上げられたにすぎません。正に寒心の至りと申さねばなりません。何とか国産技術を創り上げようという試みが通産省の次世代産業基盤技術開発プロジェクトであり、また金額的には遙かに見劣りしますがピリッと辛い科

進事業で、鈴木首相・中川大臣の御努力で昭和五十六年度追加予算で認められた訳です。これで、文部の種子播き・科技厅の苗木育て・通産の工業化の系列が出来、未だ未だ稀薄ですが兎に角国産技術育成の道程道りが出来たことは大変喜ばしいことです。東北大学は産学協同をその建学のときから柱としており、「基礎研究」というもう一本の柱と一見矛盾するようには見えますが、未開学術分野に分け入ることによる独創研究を育成して見事な成果を挙げたという実績を誇つて

おります。そのお蔭で金研の増本教授と共に四件のうち選ばれ、創造科学技術開発のトップバッターの重責を擔う案に浴しました。渡辺先生の下で研究生活をはじめて以来の

業の神経はエレクトロニクスであり、エレクトロニクスのおくれは産業全体を潰滅させてしまします。そしてエレクトロニクスの背骨は集積回路であり、集積回路の主役は増巾デバイスといえると思ひます。まして、我国は食料すら自給出来ない資源枯渇国です。新技術がなければ何も売ってもらえないでせう。幸いにして昭和二十五年以来暖めて来た

SITもSITも驚くべき性能を示し、将来基幹技術となり得る性能をもっているように、既に米国ではVHSICプロジェクトに取り上げられ、M₁Tではパライミニアブルベーストランジスタ、コネル大ではパリスティックトランジスタと名前だけ変えられて開発が開始されております。推定すると10ps以下で働らくと考えられ、この実現を計るつもりですが、手法としては二十年間予算がつかずに展開出来ず、最近これも米国で大々的に発展した我々の光エビタキシイ技術を活用してゆく

所存であります。また、SITも既にGEでマイルドコントロールサイリスタと名前だけ変えられて開発されておりますが、我国の最大のエネルギーの無駄である送電損を直流化によつて軽減することなどを可能にすべく、開発してゆくことになっております。この他、CCD方式遙かに優るSIT方式撮像管の開発と、現在世界最高品位のGaAs結晶製造技術で大口徑化することも含まれており、何れも独創研究の成果ですが純国産技術として華開かせたいと思つております。

創造科学技術推進事業——完全結晶素子のプロジェクト・リーダーに任命されて

西沢潤一

をながら

尾重 夫

工)を始めとしてわれわれ研究室の弟子どもは、このエポナイトの拭き方から始まって、松脂を乳鉢で磨る手加減など、本当に手をとるようにして、細かい技術を教えて頂いたのである。いろいろこつがあつて、エポナイト板はただ奇麗にすればよいというのではない。松脂も余り純度の高いものは却つてよくない。

やつと一人前にダストフィギュアがとれるようになった。でも、まだ鳥山先生には及ばない。しかし見て頂くと、先生はニコリとうなずかれる。その童顔ともいえるような笑顔は今も忘れられない。こんな教授とその弟子達とのつながりは、もう今の大学では考えられない。

電気燻製はコロナ放電によって帯電した煙の微粒子をいかや魚の表面に効率よく付着させ燻製にする方法と、煙を水蒸気と一緒にして作った液に、魚を漬ける方法とがある。この鳥山式燻製の味を知らぬものは先生の弟子とは云えない。どうだ美味いだらうと念を押されると、もう一口ということになる。この研究を英訳してアメリカの雑誌 Food Engineer's Line に投稿したところ、何十ドルかの原稿料が送られて来た。私もお裾分けにあづかった。当時の私にとっては大変な臨時収入で、早速家族ともども一番町で食事をした。その御馳走の方が正直の話電気燻製のいかよりはずっと美味かつたことは今でも申訳なく思っている。

と仙台高専の同窓会の青葉工業会の副会長として、又又、仙台高等工業学校七十五周年、東北大学工学部六十周年記念事業後援会の会長として、常に後輩の指導に努力されてきました。本記念事業は昭和五十六年三月から募金活動に入り、順調に募金が進行しています。これら総て先生の御人徳の賜であります。鳥山先生は八木秀次先生の高弟として、常に師弟愛を持ち続けられ鳥山先生は八木先生を敬い、八木先生は鳥山先生のお人柄、人物を高く評価され、終始かわらない御交りには敬服致しておりました。東北大学電気情報建物の中庭にあります八木秀次先生の胸像の「八木秀次先生」の銘は鳥山先生の書であります。八木先生の胸像を拝する度に八木先生、鳥山先生を偲び、先生方と共にありました日々を思い浮べ、感謝を捧げると共に心の励みと致し度いと思う次第であります。



柴山先生御退官

永年本学電気通信研究所にあって研究と教育に尽力されてこられた柴山乾夫先生は、昨年三月三十一日を以つて東北大学を御退官になられました。

先生は、東京のお生れの、今の東京電機大学の附属高校である電気学校電気科を昭和十二年に卒業され、直ちに東北帝国大学附属電気通信研究所(今の通研)福島研究室に勤務されました。勤務の傍ら夜学に通われ、昭和十九年には仙台高等工業、更に二十二年には東北帝国大学電気工学科を卒業され、一昨年の研究室へ助手として奉職された後、二十九年には通研菊池研究室の助教となられ、ここで有名な短円とう振動子の電気音響学的

研究で工学博士の学位を授与されています。三十六年カナダの National Research Council で振動子の振動モードの測定に関する研究に従事され、帰国直後の三十七年に教授となられ、弾性表面波を電子通信工学に応用するという着想を世界に先がけて研究テーマとして掲げられ、今日の弾性表面波工学の先鞭をつけられました。すなわち、圧電体表面に弾性表面波を直接励振受信できるすだれ状電極を開発すると共に、弾性表面波の伝搬特性非線形効果および基板材料の性質などについて基礎的研究を推進される一方、応用研究として、受動素子としてのフィルタや遅延線、能動素子としての表面波増幅器やコンポルバ

等の開発研究を行なわれ、数々の業績を挙げられました。また、弾性表面波素子や高密度集積回路素子等に必須の微細加工技術の研究では、サブミクロン線幅の描画に成功する等大きな成果を収められています。

先生のおよび通信工学の広い範囲にわたつており、ここでは紙面の都合でその一部である弾性表面波の電子・通信工学への応用について紹介しましたが、この他音場の理論的・実験的考察、動電型スピーカの理論的解析、超音波振動子およびメカニカルフィルタ更にはホログラフィの音響・振動計測への応用に関する研究等それぞれ学界における指導的役割を果たしてこられました。

先生には、昭和二十六年四月より玉川大学工学部情報通信工学科教授として、引き続き教育、研究に携わつておられ、各方面に御活躍中です。



電気・通信・電子・情報同窓会名簿

本年三月末完成予定

今般、東北大学電気・通信・電子・情報同窓会名簿を作成すべく準備を進めておりましたが、本年三月末完成の予定です。会員の移動に関する情報および広告掲載につきましましては種々御協力を賜わり誠に

にありますが、これは工学部全学科卒業生を網羅したポリユームのある会員名簿です。これに対し、電気・通信・電子・情報同窓会名簿は、いわゆる電気系学科卒業生のみを対象とした、よりコンパクト

ありますが、これは工学部全学科卒業生を網羅したポリユームのある会員名簿です。これに対し、電気・通信・電子・情報同窓会名簿は、いわゆる電気系学科卒業生のみを対象とした、よりコンパクト

で親しみ易いものになっており、出身高校の記載や現住所と自筆異なる場合両方を載せるなど致しております。お間違いないようお願い致します。

仙台高等工業学校創立七十五周年・東北大学工学部創立六十周年記念事業後援会について

前回の同窓会だより十一号にて表記の記念事業後援会の経緯について佐藤利三郎先生からお知らせがありましたので、皆様も御承知のことと存じます。

その後計画に従い、昨年からの募金を開始し、一月現在で寄付申込総額が一一一、四〇〇、〇〇〇円に達しております。募金期間は五十七年度末であり、電気系での募金目標額は約三億円であります。これから電気系の諸先生にいろいろ分担していただき法人関係に積極的にお願いにあがる予定です。また現在のところ個人寄付のお申込

みがかや伸びやんでおりますので、各位の周辺の同窓生の方々に御協力かたお声をかけていただければ幸いです。次には本後援会会長島山四男先生が去る十二月七日逝去されました。理事会でご相談の結果、新会長候補者として東

海大学総長松前重義先生が推薦されました。三月十日付で会長交替が行われる予定です。以上お知らせ迄。(文責 松尾正之)



同窓生便り

奥山 大太郎

秋田大学

立場にあるようです。幸い青葉工業会秋田支部の総会の折、同窓の方々にお会いすることが出来ますし、また、その折新しい名簿を戴くので県内の方々の動向もある程度把握し得ますが、過日戴いた同窓の職場別名簿を見ますとお目に掛ったことのない方が少なくありません。

秋田大学関係では佐藤裕二さん(通二四)が教育学部の技術科で活躍され、最近の社会的要求である電子工学的知識をある程度身につけた教員を輩出させたべく努めておられます。鉱山学部では去る四月教授に昇任(電子工学科基礎電子工学講座)された佐藤進さん(子博44)が和田先生の御遺志を継いで液晶の研究を続け、さらに光電子材料に新しい分野を開拓すべく張切っています。井上浩さん(子博53)は同学科応用電子工学講座で、これ迄お世話になつていた高木相先生時代からの仕事である接点雑音や電荷電子デバイス等の応用を続ける一方、医用電子工学(井上さんは松尾研出身)に新天地を開くために医学部のセミナーにも参加してあります。同窓とはいえないかも知れませんが、多くの同窓生がお世話になつた元応物の教官であつた金山道雄先生は現在鉱山学部共通講座の主任として相変わらず多くの講義を受け持たれてあります。研

仙台と秋田は直線距離にして百数十キロメートル程度、最短の国鉄を利用した場合二百六十キロメートルありです。時間的には四時間余、車では?の距離にありです。この状況は必ずしも容易に往來出来るという関係ではありませんので、岩手や山形に較べ若干疎遠な

三菱電機

鈴木 昌三

現在、三菱電機における電気、通信、電子情報関係の同窓生は約二二〇余名を数え、社内各事業本部、研究所等で大きな活躍をいたしております。

特筆すべき事項は、年代別構成が非常に若いということでありまして、社内同窓生のト

ップが福田恭三氏(昭二十六年電気、海外第二事業部事業部長)と極めて若いということであり、従いまして同窓会の雰囲気も当世流行の高齢化社会とこ吹く風といった有様で、まことに自由に活動し、進取・隆昌の気風が充満しております。

究も比較的電子工学に近く、電子ビーム挙動の解析と応用、熱伝導のあるお仕事が多いのですが、それらの仕事の直接的補助者が皆無という状態で随分と苦勞をしております。矢張り同窓ではありませんが長く通研でお世話になつた筆者と吉田泰夫さんは応用電子工学講座で相変わらず超音波をやっております。筆者は今年度と来年度が学科主任、就職関係の仕事を始め多忙な日を送っています。

秋田高専には佐藤武治さん(通25)と佐藤雅弘さん(通53)がいらっしゃり、佐藤武治さんは電気のベテラン教官として、佐藤雅弘さんは新進機軸でしかもテニスの顧問教官としてクラブを本年度の優勝(東北地区高専大会)に導くという記録を達成し活躍しています。

また、秋田県立脳血管研究センターはこの分野で国内・外から高い評価を受ける業績を挙げていますが、その中心の一部であるX線断層撮影のX線CTに加えて新分野であるエミッションCTを開発し注目されています。しかもその一部は自作であり、それらの原動力が菅野敏さん(電45)と三浦修一さん(電51)であることは誇つて良いことと思つています。

その他、県内には藤原勲さん(大曲工業高校、教電40)、江崎孝一さん(県立小坂高校、通23)、小林勝さん(同、教電42)、久保市勲さん(県立米内沢高校、教

日本電信 電話公社

村上 治

今日、電話は社会経済活動のあらゆる分野に浸透し、電気通信は電話産業から情報産業をめざし、いま新しい時代を迎えようとしております。データ通信、ファクシミリ通信、映像通信などの非電話系サービスは、今後ますます重要な役割を果たすものと考えられます。この多彩なサービスを自由に、かつ、低廉な料金で提供できるようにするために、高度情報通信システム(INS)を構築していくことが必要であり、このような背景を受けて、

電42、浅利寛さん(ABS、電30)、鹿島宏さん(TDK、子39)らがおられるほか、東北電力関係で秋田支店に支店長の今村一郎さん(通22)を始め高橋宏郎さん(電34)、菊地栄吾さん(電36)、秋田火力には所長の伊藤匡四郎さんがおられます。

秋田は交通の面でやや不便な点がないでもありませんが空港の新設程度で我慢しておいた方が良いでしょう。ただ必要情報の入手だけは遅れをとらないようにしたいものです。その関係の同窓の方が県内に少ないように見受けられ残念に思っております。

日本電気

宮城 嘉男

現在日本電気で活躍中の東北大学工学部卒業生は約三五〇名、このうち電気・情報系の同窓生は約二五〇名です。これは当社の全技術系社員約二〇〇名に満たない数ですが、研究・開発から事業経営に至るあらゆる分野で、それぞれ重要な役割を担っており、我々同窓生にとつてまことに心強いかぎりです。

さらに当社の事業上

で関係の深い諸官庁、諸団体、また電電公社をはじめとする諸得意先は勿論、日立、東芝、富士通など競合している各社、協力頂いている諸関連会社などに数多くの同窓生が御活躍中で、一方ならぬ御高配、御鞭撻をたまわり計り知れない便宜を頂いております。この様な中にも母校の大きさを感じ、多くの業績と地歩を築かれた諸先輩に心から感謝申し上げます。

さて、同窓生の近況ですが、緒方研二氏(十六電気)は昨年副社長を退かれましたが、当社相談役ならびに安藤藤電気会長として、ますます中広御活躍中です。常木誠太郎氏(十八電気)は現在のS I技術の発展に功績のあった方ですが、現在在な非常務理事・技術師長としてVLSI技術の推進に当たられていま

この福田事業部長は髪黒々と若々しく、青年時代そのままのヤングさで、且つナウな感覚十分で海外事業の展開に日々これ忙殺といつた有様であります。続いて岡久雄氏(LSI研究所所長、昭和二十七年電気)は半導体開発事業の鬼として獅子奮迅の活躍であります。もう一年若くなりまして系賀正己氏(昭和二十八年通信、電子

商品研究所所長)が当節華やかなA・V(オーディオ・ビジュアル)事業の研究開発に苦吟の毎日であります。不思議なことに、この方も若々しく、十年前の卒業(?!?)とは信じられない万年青年であります。気色の変つたところでは、水上益良氏(昭和二十九年電気)がパソコン事業のリーダーとして駆け取り廻れば、野村正彦氏(昭和二十九年通

に微力ながら一石を投じております。

一方、電気通信研究所は、現在、武蔵野、横須賀、茨城の三ヶ所に分かれ、各々世界の最先端を進む研究開発を展開しております。武蔵野電気通信研究所では、交換技術、LSI技術、将来の通信方式をにぎう基礎技術等の分野で電気系同窓生六〇余名が、横須賀電気通信研究所では、データ処理技術、伝送技術、各種宅内機器の分野で五〇余名が、茨城電気通信研究所では、光ファイバケーブルを始めとする線路技術の分野で一〇余名が、世界の先端をきつてトップレベルの研究開発を推進しております。

また、電気系同窓生の電電公社OBには、工学系大学で教鞭をと

られている方々が多数おります。中でも松前重義(大十四電卒)大先輩が、東海大学理事長、総長として活躍しておられるのを始めとして、重井芳治教授(昭二十三電卒)は、東北大学電気系において後輩の育成にあたられております。

東北大学電気系からは、毎年十名以上の若人を迎えております。今後東北大学電気系の気風を公社事業、研究開発に反映させるとともに、創造性ある人材を養成し、将来の電気通信サービスを高度かつ多彩なものに熟成させていきたいと考えております。今後とも仙台の諸先生方の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

フとして活躍中です。二十七年以降は毎年

次五名程度以上の同窓生がおり、約六〇名が課長以上の要職で活躍中です。また四〇年以上は先生方の御配慮により毎年十名以上の優秀な卒業生をお送り頂いております。

おかげさまで、当社の五十六年度の売上高は一兆円を越す見込ですが、六十年年度には二兆円を越すことを目標にしています。このためには新技術による新分野の開拓が必要で、有意な若い技術者が渴望されております。新しい同窓生がどしどし入ってこられることを望んでやみません。



最終の混乱から抜け出し、日本電気が新入社員を採用しはじめたのは二十六年で、この年には大塚修司氏が入社され、現在当社の技術研究所副所長として、社内における新技術交流の要となっておられます。

二十七年卒は私の他に四名います。高木政晃、佐藤利夫、猪俣敬作の諸君は夫々 NEC Systems Laboratory Inc. (ボストン)、日本電気特許技術情報センターおよび日本電気トランスミッションの各社で役員なので、滝澤正昭君と私は本社スタッフ

電気通信研究所の近況

通研広報委員会

此の冬は暖冬と云われておりましたが、二月に入るとさすがに寒さが厳しくなりました。会員の皆様にはお元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

通研では、二十部門二実験施設・附属工場及び事務部の職員及びここに所属する学生がともに、良い研究成果をあげるため相変らず努力しております。

まず、この一年間の教授・助教授の異動をお知らせします。永年通研において研究と教育に尽力され、超音波通信工学の発展に多大の貢献をされた柴山乾

東北大学、電気・情報系の近況

電気・情報系運営委員会

昨年十一月初旬、例年になく早い初雪にみまわれ、さぞかし雪の多い冬を迎えることになるだろうと心配致しましたが、比較的雪の少ない日々を送り、二月も中旬が過ぎようとしております。同窓の皆様には如何お過ごしでしょうか。

電気・情報系では、まずは大過なく、例年のごとく諸行事を過ごしてまいりました。主な人事移動を紹介いたします。まず通信工学科の曾根敬夫教授が電気通信研究所に移られました。また、四人の若い助教授、すなわち、

夫教授が昨年三月に退官され、玉川大学工学部情報通信工学科に移られました。同じく三月に音響通信部門の北企静雄助教授が応用情報学研究所センターに移られ、四月から曾根敬夫教授が通信工学科から通研に移られて音響通信部門を担当しております。量子電子工学部門の小林喬助教授が昨年九月福井大学工学部電気工学科教授として転出されました。

通信用電子物理部門において今井捷三助手が、又量子電子工学部門において伊藤弘昌助手がそれぞれ助教授になられました。さらに、山之内和彦教授が固体振動回路工学部門担当と変られ、津屋昇教授が真空電子装置部門担当と変られるとともに、これまでの電気通信材料学部門を兼担されることになりました。

その他の各部門の専任教授・助教授は前回の通研便りの通りです。から、今回は次に、各部門の中堅として活躍しておられる助手の諸教官を紹介いたします。音

響通信部門に香野俊一氏と鈴木陽一氏、電気通信方式部門に増永良文氏と白鳥則郎氏、固体電子工学部門に末光真希氏、電波伝送部門に塩田恒夫氏と草野清信氏、超高速波部門に横尾邦義氏と下江治氏、通信用電子物理部門に伊沢義雅氏、電気通信材料学部門に大森賢次氏、光波通信工学部門に白石和男氏と詫摩勇悦氏、記録工学部門に大内一弘氏、光電変換工学部門に甲田正氏、固体振動回路工学部門に内山晴夫氏と板谷謙悟氏、超真空電子工学部門に竹内登志男氏と浅見誠治氏、制御工学部門に百瀬丘氏と大矢銀一郎氏と中島康治氏、電子音響学部門に坪内和夫氏と森田清三氏、プラズマ電子工学部門に太田正之輔氏と松下貢氏と佐野雅己氏、集積回路工学部門に塩田郁雄氏と深瀬政秋氏、通信用結晶育成実験施設には坂上登氏、格子欠陥構造解析実験施設には相原政志氏と以上の通りです。さらに附属工場の高橋吉昭技官

と通信用電子物理部門の成沢裕子技官が昨年、永年勤続二十年で表彰されられたことをお知らせいたします。

昨年一号館北棟の東側に、新たに二階建ての実験棟が建設され、そこに格子欠陥構造解析実験施設が移転し、又ヘリウム後方散乱解析装置が設置されました。

通研の周囲の環境も整備され、しばらく前と較べると面目を一新しております。一号館の玄関の向って右側には、芝生と石の庭があり、左側の芝生には、故抜山平一先生の胸像が立っております。二号館南側にも芝生の庭が美しく手入れされております。一号館、号館の間にあった三三三館は取り壊され、そこには、野芝とはなみずきのなだらかな山と、あやめの流れから成る庭園が完成しました。花の盛りの頃が楽しみです。

電気工学科電気計測学講座の新妻弘明助教授、通信工学科情報機器工学講座の江刺正喜助教授、同じく電気応用計測工学講座の越後宏助教授、電子工学科電子制御工学講座の亀山充隆助教授が誕生し、新風が期待されております。さらに新助手として、山口淳(電気工学科)、堀口進(通信工学科)、小森彰夫(電子工学科)の諸氏が活躍しております。安達洋助手(電子工学科)は室蘭工大の助教授として転出し、富山能省助手(電子工学科)は三菱金属株式会社から所望され、勤務することになりました。また、成田憲一助手(電子工学科)および勝畑信助手(電子工学科)は基礎工学教室へ移りました。古山建造技官は学生実験担当となり、中鉢・高橋両技官とともに、学生実験の新しい環境づくりをそそいでいます。なお、長年電

気・情報系の経理事務を円滑ならしめてきた事務室主任の阿部ひささんが今春退職を迎えることになりました。現在の電気系三学科および情報工学教室の教授、助教授は次のとおりです。電気工学科 教授・中針憲賢(主任)、村上孝一、安達三郎、穴山武(基礎工学教室へ出向中)、竹田宏。助教授・千葉二郎、後藤幸弘、菊地新喜、大沼俊朗、阿部建一、新妻弘明。通信工学科 教授・虫明康人(主任)、清水洋、星子幸男、斎藤伸自、高木相、伊藤貴康。助教授・斎藤恒雄、石曾根孝之、中村信良、西関隆夫、越後宏、江刺正喜。電子工学科 教授・佐藤徳芳(主任)、松尾正之、柴田幸男、脇山徳雄、樋口龍雄。助教授・針生尚、星宮望、亀山充隆。

情報工学教室 教授・重井芳治(主任)、佐藤利三郎、木村正行。助教授・長沢庸二、丸岡章、中村維男。また、大学院の専攻主人は、野口正一(電気及通信工学専攻)、脇山徳雄(電子工学専攻)の三教授があつております。本年度の就職状況、昨年にまさる求人があり、各社の要望に応ずるのに四苦八苦した次第です。就職する学生が、不必要な技術でなく、真に必要な技術の開発に努力することを望んでやみません。電気・情報館の前庭を飾る図書分館の業務が開始され、この新しい環境が加わったのを機会に、研究・教育にも新味を出していきたいものです。末筆ですが、会員皆様の尚一層の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。(佐藤徳)記